

会 長 方 針

2006～2007年度 クラブテーマ

ロータリーライフは“四季の心”で



会 長 長 田 宇 功



幹 事 竹 内 幸 雄

人に接する時には、春のような温い心で

仕事に取り組む時には、夏のような燃える心で

物事を考える時には秋のような澄んだ心で

己を責める時には冬のような厳しい心で

私は今申し上げた四季の心でという言葉が大好きです。この言葉は何事においても通用しあてはめることが出来るのではないかと思います。例えば会社の経営や社員教育においても、又、団体生活においても、又、しかりだと思えます。特に、ロータリーのクラブ運営や、いちロータリアンとしても大切なもっとも重要な言葉ではないかと思います。

①人に接する時には、春のような温い心で

つまり、ロータリアン同志のお付き合い特に新入会員に対しては、温い心で接してやりましょう。

②仕事に取り組む時には、夏のような燃える心で

この事は、会員皆さんが各委員会に配属された時、委員長のもと、クラブ活動計画に従い燃えるような心で実践していただきたいと思えます。

③物事を考える時には秋のような澄んだ心で

半期又は一年を振り返って、クラブ活動における、いろいろな苦しみや思い悩み時、秋晴れの澄んだ空のような心で諸事にあたってもらいたい。

④己を責める時には冬のような厳しい心で

ロータリーに対して、反省材料があるのか、又、己の私生活や行動、そして社会生活において、ともすればマンネリ化していないだろうか、もう一度厳しい心でみつめなおす必要があるのではないかと……